第9回（平成29年度第1回）日向市キャリア教育推進懇話会議事録

平成29年7月11日（火）

於：日向市中央公民館

1 平成28年度日向市教育研究所の研究概要説明〔岩原〕 別途プレゼン資料による

2 平成28年度「よのなか教室」実績報告 別途資料による

「よのなか教室」実績の推移〔水永〕

1 / 2 成人式（日知屋小学校）〔富山〕

日向市建設業協会との取組（富高小学校）〔富山〕

立志式（大王谷学園中等部「ドリームプラン・プレゼンテーション」）〔水永〕

立志式（富島中学校「太郎の手紙」）〔水永〕

高校魅力向上プロジェクト（日向高校）〔水永〕

3 質問・感想・意見の概要

山本：保護者向けよのなか教室がよい。まず家庭からという思いがあるので。6年生よのなか教室もすばらしい。法人会の取組は富高小6年だけではもったいない。各学校のすばらしい取組を他の学校に広げていくことが大切。職業観だけではなく郷土愛も育てていかなければならない。〔日向駅恋（来い）物語〕というキャッチフレーズの取組の紹介。地元に残って地元を盛り上げる活動を頑張っている人のよのなか教室もあってよい。

浜本：建設業協会としても「土木の日」の取組を様々な学校で展開している。日向工業のインターンシップにも取り組んでいる。富高小の取組は協会の青年部が行った。広げることについても検討していきたい。

高森：6年生よのなか教室も他校に広げることは可能。（翌日の校長会で山本委員の意見の紹介）

稲用：日向工業の電気科では3年生が1年生に教える取組を昨年度からやっている。内定をもらった会社の事業内容や良さをブースを作ってアピールする取組も行っている。教える側も学びが大きい。

黒木専務：富山、福井の視察で小中一貫校を訪問した。中学生が小学生に勉強を教えに行く取組を行っていた。また、小学生が中学校の授業を見に行き学ぶ取組も行っていた。

村岡：小中一貫の教え合いはやり方次第。2～3名でチームをつくり、相談しながら2～3名の小学生に教えると中学生にレベルも上がってくる。日向市はうらやましい。宮崎市だと規模が大きすぎてなかなか取組が浸透しない。日向市はちょうどよいサイズ。利点を生かして、個人に負担加重にならないように進めていくとよ

い。

岡田：先輩は重要。あこがれの先輩がいると成長する。日向市では小中一貫を10年以上取り組んでいるが中高一貫や小中高一貫をもっと強めていけるとよい。郷土愛の醸成にもつながる。

椎葉：昨年の11月の九州PTA大会の分科会テーマも中学校キャリア教育だった。今日の報告を聞いてまた進化してると感じた。保護者への浸透をいつも課題と感じている。学校で子どもが感動したり学んだりしたことを保護者がどれだけ話を聞いてやっているのかが不安。日知屋東小で参観日によのなか教室を実施したが、全体からするとまだ一部。市Pの1月研究大会は、青少年意見発表会も兼ねて実施。高校生の意見発表や、市内の高校のPRもある。保護者がどれだけ関心持つかを市Pとして頑張らないといけない日向市のキャリア教育をPTAとしても進めていきたい。とにかく子どもと共感できる保護者をどれだけつくれるかを頑張りたい。

水永：よのなか先生の半分が校区内の保護者というのが理想。

沖田：報告を聞いて自分の認識不足を自覚した。学校の先生ばかりに目が向いていた。区長連合会としても地域と学校、PTAとの連携を密にしていかなければならない。いったいどうやって取り組めばよいか。学校の職員の働き方改善で、8月のお盆期間前後の休校の話があった。これを機に、子どもと大人が地域で触れあえるイベント等を考え、キャリア教育につながるような絆づくりができる取組を考えていきたい。

4 NHK報道番組(なるほど実感報道ドドド)視聴

5 「ひむかの子供たちの未来づくり基金」構想について〔黒木専務〕

- ・ 既に35社から申し込み
- ・ 延岡まで広げたい。
- ・ キャリア教育に係るバス代の補助など。

6 「よのなか先生」募集について〔富山〕

7 新しい社会体験の取組について(大王谷学園中等部)〔水永〕

8 協議

稲用：NHKの番組について。宮崎の高校生県内就職率最下位は専門高校が多いことも理由にある。富山や石川は専門高校が少なく普通科が多い。県内の高校でアンケートをとった。約1万人のうち3千人強が就職。その5割が県内に残る。求人数

と同じくらい。一番多く県外に出しているのは工業高校。就職の相談先で多いのが家族と保護者。先生は少なく29%。家族と保護者が県内企業のことを知らないのが課題。小中学校のうちに地元の企業を見せるのがよい。高校では遅い。

早瀬 ハローワーク所長。地元定着やミスマッチの解消に努めている。生徒や親が地元企業を知らない。早い段階で子供と親が地元企業を知るのはよいこと。

黒木専務 地元産業を紹介する推進協議会をつくりたい。日向市は28%が製造業である。子供には危険なところもあるが管理部門は大丈夫。生徒の社会体験の腕章をつくりたい。職場体験を市民にPRできるように。

中山 病院も人材獲得が課題。知ってもらおう活動が大事。専門学校だけでなく小中学校から知ってもらおう活動を病院も行わなければならない。

清水 就職準備セミナー、高3では遅い。進学系の生徒も含めて1,2年生から就職説明会を開き、ブースでマッチングを行った。市内にそんな企業があるとは知らなかったという感想もあった。説明する企業の担当者にも気付きが生まれ振り返りができたと好評。今後もマッチングの機会をつくりたい。毎年、技能まつりを10月に実施、30ブース設置している。

水永 高校生からでなく、義務教育からできないか。地域の企業に勤め、地域で暮らす喜びを感じさせたい。カッコよい大人、楽しんでいる大人が見える取組を行いたい。テストとして大王谷学園での社会体験の改革に取り組む。結果を第2回の推進懇話会で報告したい。